

週日の説教

金 大烈 神父 2011年2月17日(木)

《あなたにとって、イエス様はどういう存在ですか？》

人間的な希望や欲が持てなくなったと思う時、私たちは何に頼るのでしょうか。私たちは、死ぬまでいろいろな希望や欲の中で生きています。しかし、それにもいつかは終わりがあります。その時、私たちが頼るのは何でしょうか。

生きている間は、希望、もっと簡単に言えば欲があります。そして私たちはその欲のために生きています。いろいろな種類の欲があって、その欲に従って私たちは何かをしています。もし、その欲を持つことさえできなくなったら、皆様は何に頼りますか。考えたことがありますか。今はいろいろな望みがあると思います。しかし、その望みを持つことさえできない状態になったらどうしますか。100人中100人が、死ぬ時にはやはり絶対者を求めます。探そうとします。信者でない人でも、臨終の時に司祭が手を伸ばせばすぐに、「何とかしてください」と言うように、手をつかみます。

今日の福音(マルコ 8:27-33)で、イエス様が弟子たちに「あなたがたはわたしを何者だと言うのか。」と聞いています。私たちは、生きる基本としてこの答えの準備をしていなければなりません。イエス様は、皆様にとって具体的にどういう意味を持っているのでしょうか。ただ「神様の子として信じています。」という言葉だけでは、赤ちゃんに神様の物語を聞かせ、言葉を教え込んで、「私は神様を信じています。」と言うようになるのと変わりません。そうではなくて、具体的に感じなければならぬのです。イエス様が自分にとってどういう存在なのかを、今、きちんと考えなければならぬと思います。何の欲も持てなくなってから探すイエス様では、あまり効果がありません。望みも希望もいろいろな欲も何も持てないと思う時に頼るイエス様が、今の皆様の心にいらっしゃらなければ駄目なのです。

私が申しあげたいのは、差し迫った時、どうしようもない時に探すイエス様が、普段の何でもない時でも私たちの生活の中にいらっしゃらなければならない、ということです。

そういう意味で、「信仰は命がけ」と言うのです。イエス様が、ほんの飾り程度の、いなくて少しさびしい感じがするくらいの存在ではいけません。

4年前からずっと私が強く訴えて来たのは、「イエス様のことをもう少し深刻に考えていただきたい。」ということです。聖堂を出ればすぐに忘れてしまう存在ではなく、自分の生き方すべての基準になり、光りになり、秤になる、そういう存在として意識できれば、昨日より上手に生きられるはずで

す。
皆様、よく考えてください。今私たちが何かを望んでいるのは、生きている印かもしれませぬ。しかし、**望むことさえできない時が必ず来ます。**その時、頼るものはただ一つしかありません。その『一つ』というのはイエス様です。そのイエス様を今生きているうちに、望むことがたくさんある

うちに、迎え入れるのが正しい信仰ではないかと思えます。

ありがとうございました。